

トップメッセージ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

私から、2020年度上期の業績および
今後の取り組みについてご説明します。

取締役執行役社長

大久保 哲夫



1 2020年度上期の経営環境について

2020年度上期は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、各国で外出規制が行われ、経済活動が大きく停滞するとともに、お客さまの日常が大きく変容しました。

このような中、当グループは、個人のお客さまに向けたライフプランのご提案や、企業年金・公的年金のお客さまに対する運用見直しのご提案に際し、オンラインやWeb動画の活用を進めました。また、法人のお客さまに対しては、事業継続を目的とした資金ニーズに的確にお応えするとともに、一斉アンケートを通じ、コロナショックによる新たな経営課題の把握に注力しました。加えて、「新型コロナ ワクチン・治療薬開発

寄付口座」を開設し、ワクチン・治療薬を開発する大学などへの支援の機会を整えるなど、社会貢献に資する活動に取り組みました。

当グループでは、引き続き、お客さまと社員の安全と安心、健康を第一に、社会インフラを担う金融機関として、安定的な業務継続を行ってまいります。

なお、2020年9月に判明した三井住友信託銀行の議決権行使書集計業務に係る問題は、委託先や株主の皆さま、そして資本市場からの信頼を損なう事態であり、大変重く受け止めております。改めて、グループを挙げて業務改善に取り組み、失った信頼の回復に努めてまいります。

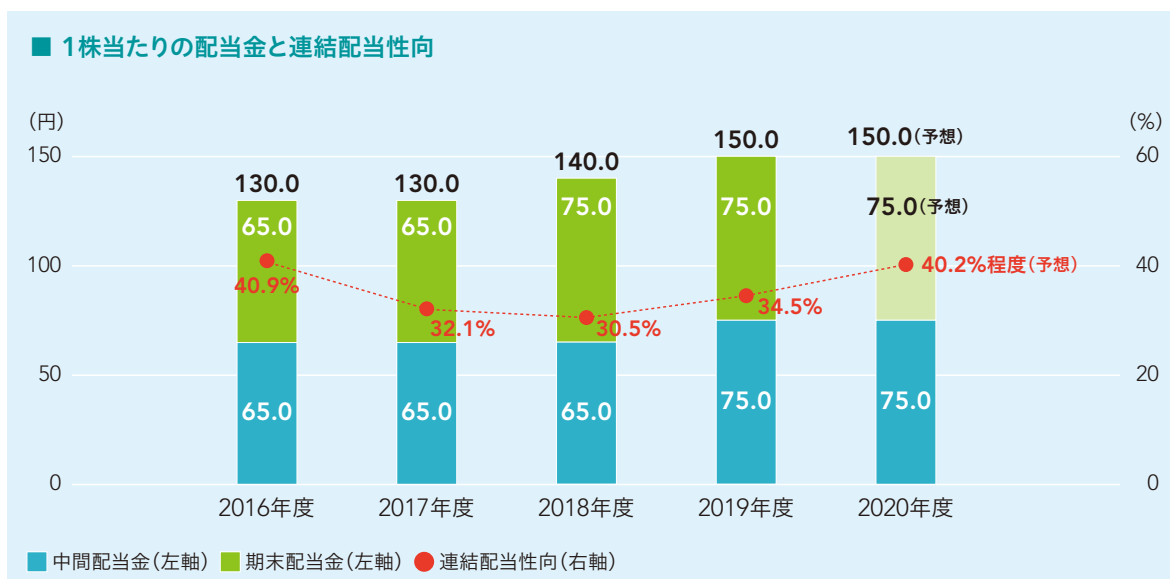
2 業績の振り返りと株主還元について

当中間期は、新型コロナウイルス感染症拡大による営業活動への制約から、個人のお客さま向け投資運用コンサルティングや不動産仲介関連の手数料収益の減少により、実質業務純益は前年同期比130億円減益の1,410億円となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う経済環境悪化に備え前年度末に計上した特例引当金の一部取り崩しなどにより与信関係費用は限定的となりましたが、株式関連派生商品の損失等もあり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比259億円減益の800億円となりました。

一方、2020年5月の公表予想に対する進捗率は実

質業務純益で56%、親会社株主に帰属する当期純利益で57%と概ね順調な進捗となったため、通期業績予想につきましては、実質業務純益を100億円上方修正の2,600億円、親会社株主に帰属する当期純利益は据え置きの1,400億円としております。

また、株主還元につきましては、業績に応じた株主利益還元策として、2022年度を目処に連結配当性向40%程度への引き上げを目指します。さらに、資本十分性の確保を前提として、中長期的な利益成長に向けた資本活用、資本効率性改善効果のバランスを踏まえつつ、機動的に自己株式取得を実施する方針としています。



※当社は、2016年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っています。上記のグラフは、2016年度の期首に株式併合が行われたと仮定し、配当金の推移を表記しています。

3 今後の取り組みについて

これまでもさまざまな危機と呼ばれるものがありましたが、今回のコロナショックは、その影響の広さと深さ、さらには長さにおいて、過去の危機とは比較にならないインパクトを持つ転換点になると考えています。当グループが新しい日常(ニューノーマル)においても「お客さまのベストパートナー」として選ばれ続けるために、お客さまを起点に以下の三つのテーマを中心に、営業モデルや行動モデルの見直しを進めてまいります。

1 お客さまのニーズに合わせた営業・行動モデルの転換

- デジタル化の加速やお客さまの価値観の変化を捉えた、サービス内容や提供手段の見直し
- 社内のコミュニケーションのあり方や社員の働き方の抜本的な変革

2 お客さまに支持され、逆風に負けない持続可能性の向上

- 業務プロセス全体の見直しを通じた、経営資源の大胆な入れ替え
- 拠点・店舗の役割見直しを含むコスト構造改革の推進

3 新たな付加価値を創造し、成長し続けるビジネスモデルの構築

- 既存の信託ビジネス領域におけるプレゼンス維持
- グループの機能や組織を横断・融合し、新たな成長領域を確立

4 最後に

ウィズコロナの先に待つ、ニューノーマルの社会は、お客さまにとっても大きな変化であると同時に、我々にとっては新たなビジネスチャンスにもなります。

さまざまなリスクと成長機会が混在し、変化に適應した企業のみが生き残ることができる環境において、

当グループは、いち早く自らの変革を成し遂げ、これを強固な顧客基盤と強靱な経営体質をつくる大きな機会と捉えて、グループ全体で成長していきたいと考えています。皆さまには今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。